

## キャリア教育の推進に向けた今後の取組について

### キャリア教育に係る本県の課題と調査結果

- ・ 高校卒業段階までに、進学者も含め、子供たちに十分なキャリア意識を育てていないのではないかという懸念

⇒この懸念を裏付けるデータが散見された。

(調査結果から)

- 中高生ともに、キャリア教育で育成を目指す「基礎的・汎用的能力」の「キャリアプランニング能力」に関する項目の自己認識に課題がある。「将来働くことの意味について考えている」と答えている中学生が36.8%、高校生は23.3%に留まっている。
- 高校生が在学している高校の学科を選んだ理由として、「自分の学力に合っていたから」の回答が最も多く(61.5%)、「将来の職業に役立つ知識・技能や資格が得られそうだったから」(11.8%)や「将来の目標を見つけられそうだったから」(13.1%)は少ない。
- 高校生が上級学校(学科)への進学を希望する理由として、「自分の興味・関心に合ったことを勉強したいから」の回答が最も多くなっている(73.4%)が、「学生生活を楽しみたいから」(14.6%)や「保護者や家族がすすめるから」(9.2%)なども一定数の回答がある。

- ・ 産業界が求める人材と、教育現場から輩出される人材のミスマッチが起こっている可能性

⇒ 生徒・学校側と企業側で仕事をするまでに身に付けるべき力の認識についてはギャップが少ないことがわかったが、それらの力を十分に育成できているかという点については、キャリア意識の育成と密接な関連があるため、課題があると考えられる。

また、企業が挙げた新卒採用に当たっての課題として、「求めるレベルの人材が採用できない」など回答が一定数を占めている。

(調査結果から)

- 高校生、大学生、県内企業、県内中高教員の全対象が、仕事をするまでに身に付けておきたい／身に付けてほしい力として「コミュニケーション能力」、「一般常識」を上位2位までに挙げており、「状況の変化に柔軟に対応する能力」を5位までに挙げています。
- 計画どおり新卒高卒者を採用できた企業、計画した人数を下回った企業の双方において、「求めるレベルの人材が採用できない」(計画どおり:31.6% 下回った:15.6%)、「求める人材が学校から推薦されない」(計画どおり:10.3% 下回った:23.1%)との回答が一定数を占めている。
- 計画どおり新卒大卒者等を採用できた企業、下回った企業の双方において、「求めるレベルの人材が採用できない」(計画どおり:30.2% 下回った:30.6%)との回答が一定数を占めている。

⇒今後、子供たちに十分なキャリア意識を育成し、産業界が求める人材を育成するために、更なるキャリア教育の取組を推進していくことが重要

## 令和6年度の本県の主な取組（予定）

### 1 高校生の就職支援（H14年度から継続）

「高校生就職支援事業」の対象として、31校33課程（県立千葉商業高校、県立八街高校、県立天羽高校等）を指定。指定校が、生徒の就職活動を充実させるために、生徒対象の講演会や教員の進路指導に関するスキルアップを図るための研修等を行う際の費用、教員の企業訪問の旅費、インターンシップ保険費等を補助。

また、近隣事業所の進路開拓や生徒の進路選択の援助を行う就職支援教員を18校（県立泉高校、我孫子東高校、大原高校等）に配置するほか、千葉労働局と連携してインターンシップの受入れ等を行う事業所のリストを作成し学校に情報提供する等の支援を実施。

### 2 職業理解のための映像教材制作（R4年度制作 R6年度続編制作予定）

実社会で働く人々のドキュメンタリー動画や専門高校の学科を紹介する動画の制作。中・高校生が産業や職業についての理解を深め、職業意識の形成や主体的な進路選択に役立てられるよう、映像資料とともにワークシート例を県ホームページで公開。中学校への文書発出や職員研修等での周知を通して活用促進を図っている。

#### 【職業編】

<u>情報・IT</u> （株式会社ZOZO）	<u>農業</u> （GREEN GIFT株式会社）
<u>工業</u> （フクダ電子株式会社白井営業所）	<u>水産</u> （嘉平屋株式会社）
<u>観光</u> （小湊温泉 吉夢）	<u>福祉</u> （特別養護老人ホーム柏きらりの風）
<u>国際</u> （成田国際空港株式会社）	<u>医療</u> （国際医療福祉大学成田病院）

#### 【学科編】

<u>工業</u> ：県立千葉工業高校	<u>農業</u> （畜産科）：県立旭農業高校
<u>水産</u> （海洋科）：県立館山総合高校	<u>福祉</u> （福祉教養科）：県立松戸向陽高校

### 3 キャリアデザイン講演会の実施（R4年度から継続）

県立高校において、企業経営や科学技術分野等で活躍する著名人による講演を実施。講演を動画に編集し、県内高校生向けに限定公開。高校生が様々な生き方や考え方に触れ、自らの職業観を養い、見通しを持って学校生活を送るきっかけとする。

#### 【R4年度実績】

##### 県立千葉高校・県立東葛飾高校

㈱ユーグレナ 取締役代表執行役員 CEO 「世界を変えるベンチャー企業の視点」

##### 県立千葉商業高校

㈱千葉銀行 取締役常務執行役員 「企業が求める人材とは」

##### 県立船橋高等学校

（一社）日本CTO 代表理事 「エンジニアになろう」

##### 県立長生高等学校

著名コメンテーター 「予測不可能な時代に必要な力」

#### 【R5年度実績】

##### 県立千葉東高校

元スターバックスコーヒージャパン CEO 「私たちは何のために働くのか」

##### 県立小金高校

磯谷公認会計士税理士事務所 「自分事として考える金融と世の中の仕組み」

#### 4 課題探究型キャリア教育ゼミの実施（R4 年度から継続）※資料4 参照

専門高校を拠点校とした各グループが、専門学科の特性を生かして地域の課題を設定し、解決に向けて探究活動を実施。他者と協力しながら、主体的に課題解決を図るなど、社会人として必要な資質・能力を育成する。

#### 5 中高生対象キャリア教育実践プログラム研究事業の実施

（R5 年度：高校生を対象に実施 R6 年度：中学生を対象に追加して拡充実施）

中学生及び普通科の高校生を対象に、キャリアデザインの考え方や、自己理解の重要性について学ぶことを通して、キャリア意識を高め、希望する進路を追求しながら目的意識を明確にして卒業後の進路選択を行うことにつなげる。

※対象：中学2年生 1,200 人程度（市町村立学校 10 校程度）

高校1年生 900 人程度（県立高校 3 校）

※プログラム実施の前後に、アンケート調査、適性等診断テスト等を実施し、プログラム実施前後の生徒の意識の変容を調査・分析するなどして、事業の効果を検証。

##### 【令和5年度実績】

モデル校：県立高校 3 校（第2学年 約 900 人対象）

県立若松高等学校 県立船橋芝山高等学校 県立我孫子高等学校

プログラム構成：

STEP1 キャリアデザインの考え方、社会との関わり（適性診断結果の活用）

STEP2 自己分析の重要性、自己の社会人基礎力の理解と向上のためのプラン策定

STEP3 目標に向かったアクションの実践（実践報告会、振り返り）

#### 6 中学校教員の県立高校専門学科の視察研修（R6 年度新規）

中学校の教員に、県立高校の専門学科ではどのような学びを実践しているのかを、実際の授業の様子等を見学してもらうことで、専門学科への進学に関する見識を深めさせる。

[参加教員]初めて進路（第3学年）を担当する若手職員など 140 名

※推薦研修として教育事務所ごとの参加者を決定

[視察内容]・借り上げバスで、午前1校、午後1校の計2校を視察。

例) 午前：工業系専門学科 午後：商業系専門学科

- ・各学校において授業見学1時間、管理職からの学校説明1時間など
- ・地域ごとに5コースの視察を実施。

#### 7 その他の取組

##### ○キャリア教育教員研修

社会の変化に伴い、キャリア教育に必要な視点や、産業と雇用の動向等についての理解を深めるための教員研修を実施。

##### ○主体的な高校選択の推進のための取組（資料4 参照）

- ・学校提案型魅力発信事業
- ・専門学科を体験しよう事業